

新たな国立公文書館及び憲政記念館に係る基本設計について

＜内閣府 令和元年11月＞

建物概要

場所：国会前庭（憲政記念館敷地）
 建物：地上3階地下4階
 総建物面積：約42,460㎡ ＜内訳は右のとおり＞
 （憲政記念館・駐車場を含む面積）
 工事費：約488.9億円（什器等諸費用除く）

今後の進め方（予定）

～令和3(2021)年3月 実施設計
 令和3(2021)年度～ 建設工事
 令和8(2026)年度 施設完成・開館

機能名	国立公文書館		憲政記念館
展示・学習	約2,360㎡	(420㎡)	約1,280㎡
調査研究支援	約1,200㎡	(340㎡)	約380㎡
講堂・会議室			約1,040㎡
保存 ＜一般書庫書架延長＞	約9,750㎡	(14,940㎡) ＜約100km (72km)＞	約800㎡
修復	約420㎡	(140㎡)	
デジタルアーカイブ	約380㎡	(-)	
交流（エントランス等）	約1,000㎡		約550㎡
執務・管理	約6,770㎡		約780㎡
その他（廊下等）		約9,110㎡	
駐車場		約6,640㎡	
合計	約42,460㎡		

※（）内は北の丸の現状。ただし、保存はつくばも含む。機能毎の面積は現時点での想定で、実施設計段階で変更となる可能性がある。

外観

- 国立公文書館のデザインは、その中枢機能である**歴史公文書等の保存を表現**するため、**時を貫く記録の「積み重ね」のイメージを水平ラインで強調**するとともに、**所蔵資料を守り保存する使命を重厚感と陰影ある意匠**で表現する。
- また、国の三権が集中し、国民が利用しやすい国会前庭への立地であることを踏まえ、隣接する**国会議事堂との調和**を図るため、国立公文書館には**同系色の石材**（国会議事堂：桜御影）を使用する。
- 憲政記念館のデザインは、**両館の独自性を表現**するため、現建物の特徴を継承し、**近代建築材料（金属、ガラス等）**を基調とする。



国立公文書館北西側外観

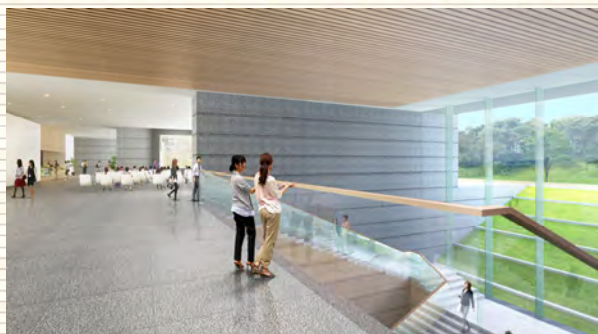


国立公文書館（左）及び憲政記念館西側外観

※当デザインには、国内で最も権威ある建築の賞とされる「日本建築学会賞(作品)」受賞者である大谷弘明氏、山梨知彦氏（いずれも(株)日建設計 設計部門アシスタント）がレビュアーとして参画。

ゾーニング・動線計画

- 洪水や津波による**浸水の想定されない高台**に位置。また、外部環境や地震の影響を受けにくい、**地下階に保存機能を配置**。
- **機能毎に同一階に配置**（例：展示<地下1階>、閲覧<地下2階>）するほか、来館者動線、管理用動線、資料動線の**各動線を明確に分離**。
- **多様な来館者の利便性に配慮**し、来館者専用E V（30人乗各2台）を設置するとともに、**授乳室や託児室、食堂等は1階に配置**。



木材を取り入れたエントランスホールから開放的な大階段を望む



レセプション等も開催できる、皇居を望む1階来館者用スペース

展示・学習	来館者動線
調査研究支援	管理用動線
保存	資料動線
修復	中間書庫動線
デジタルアーカイブ	来館者出入口
交流	管理用出入口
執務・管理	資料出入口
集会	中間書庫出入口
その他 (廊下、機械室、駐車場等)	



※現時点における検討案であり、今後の詳細検討や行政との協議結果を踏まえ、変更となる場合がある。

